

藤冠森

むかーし、あったと。

藤田村には、たくさんの藤の木があり、そこを開拓し、藤の林にしたことから、藤田村と名がつけられたんだと。そんなわけで、藤田村は一面藤の花に囲まれ、まるで夢のような美しさなんだ。

村には、氏神・守堂を持っている七軒の家があったそうだ。そのひとつ、菊地家の古屋敷にある藤冠森は、家神正一位稻荷大明神（一名を白玉稻荷ともいう）の祭地となっている。その先祖様に、又次郎という人がいて常に家神様を崇敬し、よーぐ管理してつから、その森は毎年見事な花を咲かせていたんだと。森全体が藤の花でいっぱいになり、

「あたかも藤の冠を戴けるようだ」

と言われている。「藤冠」という由来は、こっから言われるようになったんだと。

この森は「藤冠森」と呼ばれ、

「藤田村の名藤なり」

と人々から愛されている。また、この森の木を無断で切ると直ちに神罰を受けると言い伝えがあり、家人であっても勝手に伐採することはできなかったんだと。

稻荷大明神は白狐とも伝えられており、このため近隣の家では白色の家畜を飼うことは許されなかったんだと。

今でも菊地家、橋本家では、このならわしを守り、白い家畜や動物を飼うことを禁じているそう。

おしまい

参考文献 旧南那須町「まちの民話」より